



中津江

Nakatsue



心の交流いつまでも

5月20日、鯛生スポーツセンターにて、カメルーン共和国建国46周年記念祝賀会が開催された。2002年のサッカーW杯において、同国チームのキャンプ地だった中津江村では、現在も交流が続いており、今回は在日大使館のゼング特命全権大使等が訪れ交流を深めた。祝賀会では、地域の人々によるアトラクション等が披露され、会場は終始賑わっていた。



新茶の香り 今年も

5月14日、原地区で新茶の摘み取り作業と蒸製玉緑茶の製茶研修が行われた。艶やかな新芽で覆われた茶園では、山間地の遅霜にも比較的強いとされる品種「おくみどり」が3ヘクタールにわたって栽培されている。厳寒の冬を耐えて芽吹いた若葉は、蒸されることで鮮やかさを増し、爽やかな香りを放つ津江茶へと生まれ変わる。

大山

Oyama



夏には#フォトジェニック

5月20日、昨年に続いて小五馬の休耕田にひまわりの種を植えるイベントが行われた。遊休地の有効活用を目的に開催され、大きく花開く夏を楽しむに、地区内外から参加した50人が丁寧に植えた種は約13,000個。昨年収穫した種も発芽し、6月に清流長寿老人会が5,600株を追加で植えた。山あいのひまわり畑は、8月中旬に見頃を迎え



ルールを守って自分を守ろう

5月10日、大山小学校で1～3年生を対象に、大分県交通安全協会日田支部による交通安全教室が行われた。1・2年生は、歩行での横断歩道の渡り方や信号のある交差点で注意すること、3年生は自転車に乗り、狭い道や障害物がある時に気をつけることなどを、一般道を模したグラウンドや体育館で実践しながら学習した。



日田

まちの話題

Hita



日田西瓜の出荷が始まりました

5月25日、JAおおいだ中西部事業部集出荷場で日田西瓜の初出荷式が行われた。冬の低温で生育が心配されたが、日田特有の寒暖差の大きい気候によって、糖度も高く甘さ抜群の西瓜に育った。日田西瓜は福岡や大分を中心に出荷され、今後、市場キャンペーン等で、知名度の向上に取り組んでいく。



魚が住める美しい川に

5月20日、大宮町の日田漁業協同組合で平成30年度の魚霊祭が開催された。漁協関係者をはじめ、およそ60人が参列した式典では、手島組合長が「川で魚が生きていける環境を考え、魚が住めるような美しい川にしたい」と挨拶した。鮎漁の解禁となったこの日は天候にも恵まれ、漁協周辺の川では鮎釣りを楽しむ人がたくさん訪れていた。



全国から豆田に集結

5月30日から3日間、第40回全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会日田大会が開催された。同協議会は伝統的建造物群保存地区が所在する97市町村が加入しており、総会・研修会が日田市で開催されるのは初めて。研修会では、参加した市町村の担当者・住民等が豆田町伝建地区の視察等を行い、日本遺産子どもガイド等の説明を受けた。



チェコ共和国ホドニン市長の表敬訪問

5月28日、チェコ南東部ホドニン市のミラン・ルーチュカ市長一行が、世界温泉地サミットに合わせて日田市長を表敬訪問した。「温泉地」という共通点を持つ両市は互いの文化等を紹介し交流を深めた。また、一行は前日に屋形船に乗り日田川開き観光祭の花火大会を鑑賞する等、日田市の文化に触れ感激し、ホドニン市民へ魅力を伝えたいと話した。